

いなさの風

上野間小だより 平成30年7月号

可能性を信じて

校長 山 中 信 子

6月19日、2008年北京パラリンピックゴールボール代表の高田朋枝さんをお招きして、「あすチャレ！スクール」を行いました。「あすチャレ」とは、「明日へのチャレンジ」の略だそうです。4年生から6年生の児童が、ゴールボールを体験したり、高田さんのお話（下記）を聞いたりして、障害やパラリンピックについて学び、「明日へのチャレンジ」につなげることができました。私もアイシェード（目隠し）をして、ゴールボールを体験しました。何も見えなくなったとき、不安で、コートの中の線を手でなぞって何度も自分の位置を確かめていました。それでも試合が始まると、耳を澄ませて、ボールの中にある鈴の音を手がかりに少しだけ動くことができました。何も見えなくても、鈴の音を頼りにボールをキャッチできるのです。見えないから球技ができないのではなく、工夫することで可能性が広がることを実感しました。高田さんも、子どもたちに「人の可能性を感じてほしい」「どんな人にも可能性があることを知ってほしい」という思いからこの「あすチャレ」の活動をしているそうです。上野間小学校の皆さんも無限の可能性を秘めています。困難なことがあってもあきらめずに工夫して、自分の限界に挑戦してほしいと思います。



<高田さんのお話（概要）>

- ① 障害について
 - ・みんなと違うことが不安な時期もあったが、「目が悪くてもみんなと一緒にだよ」と言う先生の言葉で勇気づけられた。
 - ・障害があるなしに関係なく、努力や練習でできることが増える。
- ② パラリンピックについて
 - ・パラリンピックの競技は、できるためにどうしたらよいかという工夫（ゴールボールでは、ボールの中に鈴を入れるなど）がいっぱいある。
 - ・「できないからやらない」ではなく、どうしたらできるかを考えることが大切。



7月・8月の予定

<7月の予定>		23・24日 水泳指導
7日 町家庭教育講演会（町総体）	23～26日 プール開放	28日 資源回収（29日予備日）
10日 学校保健委員会②	<8月の予定>	
10～12日 個人懇談会	1・2日 小学校体育大会	(3日予備日)
13日 夏の交通安全街頭監視活動	25日 全校出校日・親子奉仕作業	
14日 PTAすもう大会	29～31日 ラジオ体操	
17日 鑑賞会⑤⑥		
19日 給食最終、通学団会⑤		
20日 終業式		

みはまの教育・合い言葉 「伝えよう! 『もったいない』の言葉と心」

修学旅行〔6年生〕（6/20・21）

4月から、修学旅行のゴールを自分たちで考え、スローガンを「歴史に触れ、仲間との絆を深め、一生の思い出にしよう」と決めました。そして、そのために「①友達が困っていたら自分から声をかける②笑顔・あいさつ・ルールを大切にする③社会の授業をしっかり受ける」と行動目標を決め、準備を進めてきました。今回は、地震や雨の心配があり、安全を第一に考えて予定を変更することがありましたが、臨機応変に行動することができました。1日目は、京都タクシー研修、2日目は、奈良公園（東大寺等）・法隆寺の見学です。見学地でしっかりメモをとる姿や本物を見て感動する姿、グループで協力する姿…、まさにスローガン通りの姿でした。解散式でスローガンを振り返り、全員が「達成できた」と手を挙げる事ができたこともうれしく思いました。多くの方に支えられての2日間であったことを忘れずに、この経験をこれからの生活に生かし、最高学年として活躍してくれることを期待しています。



【タクシーの運転手さんへお願いします～】



【大仏館での夕食～奥田小とともに～】



【大仏館の部屋で～仲間とともに～】



【大仏館のご主人へ～ありがとうございます～】



【東大寺～本物に感動しました～】



【奈良公園～シカと触れ合いました～】



【二月堂～皆で手を合わせました～】



【昼食～いただきます～】



【お世話になった方へ～ありがとうございます～】

地震避難訓練（6/26）

授業中に東海地方に震度6強の大きな地震が発生したと想定して地震避難訓練を行いました。毎年、この時期に行っている訓練です。教室から運動場へ避難して人員確認した後、さらに「大津波警報」が発表されたという想定で高台となる体育館東駐車場へ避難しました。今後、予告無しの訓練も予定しています。

先週の月曜日、6月18日7時58分頃大阪府北部を震源地とする震度6弱の地震があり、大きな被害が出ています。地震は、いつ起こるか分かりません。子どもたちが学校にいるとき、家にいるとき、登下校中、帰宅後遊びに行ったときなど。また、大人と一緒にいるとき、友達と一緒にいるとき、一人であるときなど。様々な場合を想定し、今一度校内や通学路等、ブロック塀など「危険な所はないか」という視点で見直すとともに、学校・家庭・地域で連携して防災に取り組んでいきたいと考えています。ご家庭でも、防災について話題にさせていただきたいと思っております。

